

保育者志望学生における地域連携に対する意識調査

金子 智 昭
(こども学科 助教)

持 田 京 子
(こども学科 准教授)

I. 問題と目的

本学学生は、筆者らの担当科目の授業内で、近郊の保育所や小学校の子どもたちと連携授業を行っている。平成29年度は、前期に保育所と3回および小学校と1回、後期とその補講日に保育所と1回および小学校と5回の交流を予定している。

保育所との交流は、本学と交友関係の深い園からの依頼により実施されている。その一方、小学校との交流は、羽生市「学びあい夢プロジェクト」と称する市の地域連携への取り組みの一環として行っている。学びあい夢プロジェクトの趣旨は、「小学生が大学での授業や生活に参加し、大学生と交流を深めることによって、自らの将来に夢を膨らませると共に、保育を学ぶ大学生にとっては、子どもを理解し、関わり方を学び、自らの保育観を考える場の一つとする」である。一般的な保育者養成校では、保育所や幼稚園の乳幼児と交流する機会はあると考えられるが、本校のように小学校を含めて頻繁に交流を実施している大学は、決して多いとは言えないだろう。

今後、連携授業が学生と子どもの双方にとって充実した学びに繋がるために、交流内容を吟味したり、交流プログラムを精査したりするなどの課題を克服する必要がある。その前提となる基礎資料として、保育科学生の地域連携や連携授業に対する意識を明らかにすることは重要と考える。また、本学の学生と他大学の保育科学生との意識を比較し検討することは、本学の学生独自の特徴を明らかにし、今後の連携授業の方向性を確認するうえで、より有益な知見が得られることが期待される。

そこで本研究では、本学の学生と他大学の保育科学生を対象に、学生の地域連携や連携授業に対する意識調査を行うことを目的とする。



Figure1 保育所との交流の様子
—ウォークラリーを楽しもう—



Figure2 小学生との交流の様子
—日本の伝統的なあそび「ずぼんぼ」—

II. 方法

1. 調査対象者及び手続き

本校の1年生53名（1学年4クラスのうち、B組、D組の学生）と対象校であるC県の保育者養成系短期大学（以下、K短期大学とする）の1年生56名の計109名を対象に、2017年10月中旬に質問紙調査を行った（Table1）。無記名の個人記入形式の質問紙を、大学の講義時間を活用して配布し、その場で回収を行った。

平成29年度における本校の交流予定を、Table2に示す。調査対象者の学生は、調査実施時点では、B組は保育所と1回、D組は保育所と2回の交流を行っている。なお、Table2に示された交流予定は、筆者らが授業内で全クラスの学生に伝達し、学生自身が見通しを持って交流の準備が行えるように留意している。その一方、K短期大学の対象学生は、調査実施時点では、授業内で保育所の園見学を1回程度行っている。

Table1 調査対象者の大学別の内訳

	埼玉純真短期大学	K 短期大学	合計
人数	53名	56名	109名
(%)	(48.6%)	(51.4%)	(100%)

Table2 平成29年度における本学の連携授業の予定

学期区分	授業の回数	授業の実施日	交流の保育所および小学校	交流担当の学年とクラス
前期	第1回	6月中旬	公立A保育所	1年生（A組，B組）
	第2回	6月中旬	公立A小学校	2年生（C組，D組）
	第3回	7月中旬	私立B保育所	1年生（C組，D組）
	第4回	8月中旬	私立B保育所	1年生（C組，D組）
後期	第5回	10月初旬	公立B小学校，公立C小学校	1年生（A組，C組）
		10月中旬	本調査の実施	
	第6回	11月初旬	公立D小学校	1年生（B組，D組）
	第7回	11月下旬	公立E小学校	1年生（A組，C組）
	第8回	12月下旬	公立F小学校	1年生（B組，D組）
	第9回	1月下旬	公立G小学校	1年生（A組，C組）
	補講	第10回	2月初旬	私立B保育所

2. 調査内容

1) 地域への関心度

学生の居住地域および学校地域への関心度を問う2項目を用いた。教示文は、「あなたは、自分の住んでいる地域について関心を持っていますか?」、「あなたは、学校がある地域について関心を持っていますか?」とした。評価は、「非常に持っている（5点）」「持っている（4点）」「普通（3点）」「あまり持っていない（2点）」「関心がない（1点）」の5段階で回答を求めた。

2) ボランティアの参加経験の有無とその内容および理由

学生の居住地域や学校地域のボランティア経験の有無とその理由を尋ねた。教示文は、「あなたは、自分の住んでいる地域や学校がある地域で、イベントの手伝いやボランティアをしたことがありますか？あると答えた人はその内容を、ないと答えた人はその理由を書いてください」とした。

3) 学生が地域と関わりを持つことの必要感とその理由

学生が地域と関わりを持つことの必要感として、1項目を用いた。教示文は、「あなたは、学生が地域と関わりを持つことは必要だと思いますか？」とした。評価は、「非常に必要だと思う（4点）」「必要だと思う（3点）」「あまり必要ではない（2点）」「必要ない（1点）」の4段階で回答を求めた。更に、「非常に必要だと思う」「必要だと思う」のどちらかに回答した者を「必要あり群」としてそう思う理由を、「あまり必要でない」「必要ない」のどちらかに回答した者を「必要なし群」としてそう思う理由を、自由記述で尋ねた。

4) 大学が小学校と連携することの必要感とその理由

大学が小学校と連携することの必要感として、1項目を用いた。教示文は、「あなたは、大学生が小学生（小学校）と連携することは必要だと思いますか？」とした。評価は、「非常に必要だと思う（4点）」「必要だと思う（3点）」「あまり必要ではない（2点）」「必要ない（1点）」の4段階で回答を求めた。更に、「非常に必要だと思う」「必要だと思う」のどちらかに回答した者を「必要あり群」としてそう思う理由を、「あまり必要でない」「必要ない」のどちらかに回答した者を「必要なし群」としてそう思う理由を、自由記述で尋ねた。

5) 幼稚園・保育所における地域連携の必要感とその理由

幼稚園や保育所が地域連携を行うことの必要感として、1項目を用いた。教示文は、「あなたは、幼稚園や保育所が地域連携を行うことは必要だと思いますか？」とした。評価は、「非常に必要だと思う（4点）」「必要だと思う（3点）」「あまり必要ではない（2点）」「必要ない（1点）」の4段階で回答を求めた。更に、「非常に必要だと思う」「必要だと思う」のどちらかに回答した者を「必要あり群」としてそう思う理由を、「あまり必要でない」「必要ない」のどちらかに回答した者を「必要なし群」としてそう思う理由を、自由記述で尋ねた。

6) 大学での連携授業に対する希望内容

大学での連携授業に対する希望内容を、自由記述で回答を求めた。教示文は、「あなたは小学校や幼稚園、保育所との連携授業があれば、どのようなことをやってみたいですか？できるだけ詳しく具体的に書いてください」とした。

Ⅲ. 結果

1. 各質問項目の記述統計およびカテゴリー分析

1) 地域への関心度

居住地域への関心度の1項目の平均値および標準偏差は、 $M = 3.09$ ($SD = .82$)であった。また、学校地域の関心度の1項目は、 $M = 2.64$ ($SD = .83$)であった。各2項目の合計得点を項目数で除した値を、「地域への関心度」($M = 2.86$, $SD = .73$)と命名した。信頼性係数は $\alpha = .729$ であり、高い内的一貫性が示された。

Table3 居住地域への関心度の度数分布 ($N=109$)

評価段階	人数	%
5.非常に持っている	5人	2.8%
4.持っている	24人	16.5%
3.普通	59人	54.1%
2.あまり持っていない	18人	22.0%
1.関心がない	3人	4.6%
計	109人	100%

Table4 学校地域への関心度の度数分布 ($N=109$)

評価段階	人数	%
5.非常に持っている	1人	0.9%
4.持っている	11人	10.2%
3.普通	55人	50.9%
2.あまり持っていない	30人	27.8%
1.関心がない	11人	10.2%
計	108人	100%

2) ボランティアの参加経験の有無とその内容および理由

ボランティアの参加活動の有無について、「参加経験あり」と「参加経験なし」のそれぞれの人数(%)を求めた(Table5)。参加経験の有無に差があるかどうか確認するためにノンパラメトリック検定を行った結果、 $\chi^2 = 5.03$ ($p < .05$, $df = 1$, $N = 105$)であり、「参加経験あり」の方が有意に多いことが示された。次に、参加経験ありの64名の自由記述を基にカテゴリー分析を行った結果、3つのカテゴリー(「地域のイベント・行事」「保育所・幼稚園・学校の行事」「施設の活動」)が抽出された(Table6)。「参加経験なし」と回答した41名の理由としては、「ボランティアに参加する機会がないため」「ボランティアの情報が入ってこないから」「部活などが忙しいから」「これから参加する予定」「あまり関心がないから」などの理由が挙げられた。

Table5 ボランティアへの参加経験の有無 (N=105)

参加経験の有無	人数	%
参加経験あり	64人	61.0%
参加経験なし	41人	39.0%
計	105人	100%

Table6 ボランティア参加経験あり群のカテゴリー分析 (N=64)

カテゴリー	記述内容の例
1.地域のイベント・行事	地域のお祭りの手伝い マラソン大会 町内会のゴミ拾い
2.保育所・幼稚園・学校の行事	運動会（体育祭）の手伝い 特別支援学校の文化祭の手伝い 小学校での学習・生活指導の補助
3.施設の活動	老人ホームで夏祭りの手伝い 障がい児施設での農作業 郷土資料館昔あそびのボランティア

3) 学生が地域と関わりを持つことの必要感とその理由

学生が地域と関わりを持つことの必要感1項目の平均値および標準偏差は、 $M = 3.01$ ($SD = .46$) であった。「非常に必要だと思う」の12名と「必要だと思う」の86名の計98名のうち、自由記述が書かれていた85名を分析対象として、カテゴリー分析を行った。その結果、「自己成長」「地域活性化」「地域理解」「コミュニケーション」「相互扶助」の5つのカテゴリーが抽出された (Table8)。「あまり必要ではない」と回答した11名の理由としては、「本人の意志で良いと思う」「学校に来たばかりで地域への愛着が感じられない」「地域と関わりを持たなくても生きていける」「学業の方が大切」などが挙げられた。

Table7 学生が地域と関わりを持つことの必要感に関する度数分布 (N=109)

評定段階	人数	%
4.非常に必要だと思う	12人	11.0%
3.必要だと思う	86人	78.9%
2.あまり必要ではない	11人	10.1%
1.必要ない	0人	0%
計	108人	100%

Table8 学生が地域と関わりを持つ必要感あり群のカテゴリー分析 (N=85)

カテゴリー	記述内容の例
1.自己成長	地域と関わることで広い視野が持てると思うから 普段の生活では体験できない学びがあるから たくさんの人と繋がって色々な経験ができるから
2.地域活性化	活気がある地域になるから 将来は今の学生の人たちが地域をまとめることになるから 地域特有の行事などの伝統を受け継ぐ必要があるから
3.地域理解	学生がその地域の状態を知ることができるから 自分の地域のことを知ることは大切だから 地域の良さを知ることができるから
4.コミュニケーション	地域の人とコミュニケーションをとることは大切だから コミュニケーションをとるため 地域の人と交流が深まるから
5.相互扶助	災害や事件があった時、協力できるから いざという時に、協力できるから 危険があった時に助けてくれたり協力して過ごせるから

4) 大学が小学校と連携することの必要感とその理由

大学が小学校と連携することの必要感1項目の平均値および標準偏差は、 $M = 3.01$ ($SD = .46$) であった。「非常に必要だと思う」の12名と「必要だと思う」の84名の計96名のうち、自由記述が書かれていた85名を分析対象として、カテゴリー分析を行った。その結果、「子どもの発達理解」「小学校生活への理解」「児童の将来形成」「保育職としての発達の見通し」の4つのカテゴリーが抽出された (Table10)。「あまり必要ではない」と回答した11名の理由としては、「大学生と小学生の関わりはあまり無いと感じるから」「必要性を感じない」「正直どちらでも良い。小学生は中学生と関わるべきだと思う」などが挙げられた。

Table9 大学が小学校と連携することの必要感に関する度数分布 (N=107)

評定段階	人数	%
4.非常に必要だと思う	12人	11.2%
3.必要だと思う	84人	78.5%
2.あまり必要ではない	11人	10.3%
1.必要ない	0人	0%
計	107人	100%

Table10 大学が小学校と連携することの必要性あり群のカテゴリー分析 (N=85)

カテゴリー	記述内容の例
1.子どもの発達理解	子どもの発達について、より学ぶことができるから 年長児と小学校1年生の発達の違いが分かるから 様々な年代の子どもと関わると、成長がみえてくると思うから
2.小学校生活への理解	積極的に関わることで、小学生の生活などを知ることができるから 今の小学生がどのようなことを考えているのか理解するため 小学校でどのような教育をするのかを具体的に知ることができるから
3.児童の将来形成	小学生の将来の方向性に選択肢を与えるため 小学生が将来の夢について考えるため 小学生が大人に関心を持つきっかけになると思うから
4.保育職としての発達の見通し	保育者になった時、小学生のことを知っていた方が良いから 就職する職種によるが、子ども関係の仕事なら少しでも多く関わりを持つ方が良いから 将来、教育・保育をする人にとって、連携をして小学生の特徴を知ることが大切だから

(無回答11名)

5) 幼稚園・保育所における地域連携の必要感とその理由

幼稚園や保育所が地域連携を行うことの必要感1項目の平均値および標準偏差は、 $M = 3.37$ ($SD = .48$)であった。「非常に必要だと思う」の39名と「必要だと思う」の67名の計106名のうち、自由記述が書かれていた95名を分析対象として、カテゴリー分析を行った。その結果、「相互理解・協力」「子どもの成長」「地域全体での子育て推進」「近隣への迷惑防止」「防犯」の5つのカテゴリーが抽出された (Table12)。「あまり必要ではない」「必要ない」と回答した者はいなかった。

Table11 幼稚園・保育所の地域連携の必要感に関する度数分布 (N=106)

評定段階	人数	%
4.非常に必要だと思う	39人	36.8%
3.必要だと思う	67人	63.2%
2.あまり必要ではない	0人	0%
1.必要ない	0人	0%
計	106人	100%

Table12 幼稚園・保育所の地域連携の必要感あり群のカテゴリー分析 (N=95)

カテゴリー	記述内容の例
1.相互理解・協力	地域の方に認めてもらうことで理解が深まるから 地域の方々の理解があつてこそ成り立っていると思うから 行事などをするうえで、地域の方の協力が必要だから
2.子どもの成長	高齢の方や地域に住んでいる方と子どもが交流することは、子どもの成長に良いから 地域のことに触れるのは、子どもに良い刺激になると思うから 地域のことを知れるきっかけになると思うから
3.地域全体での子育て推進	地域全体で子どもを見守る必要があると思うから 地域と連携して子どもを育てることは大切だと思うから 子どもを育てるうえで、地域の人々の協力が必要になるから
4.近隣への迷惑防止	幼稚園や保育所が騒音などで迷惑になってしまった時、地域と連携がとれていればトラブルになりにくいから 子どもの声へのクレームや保育所を増やすことに反対の人が減るなど、住みやすい地域になると思うから 最近、「近所に幼稚園を設立するのはうるさくてヤダ」という意見もあるから
5.防犯	近所の人が見守ってくれば犯罪防止になるから 地域の人と連携することにより、子どもへの安全性が高くなるから 地域の人に子どもの安全を見守ってもらえるから

(無回答14名)

6) 大学での連携授業に対する希望内容

連携授業の希望内容の自由記述について、具体的記述の有無による人数と%を算出した (Table13)。具体的記述の有無に差があるかどうか確認するためにノンパラメトリック検定を行った結果、 $\chi^2 = 7.71$ ($p < .01$, $df = 1$, $N = 109$) であり、「具体的記述あり」の方が有意に多かった。次に、具体的記述ありの69名を分析対象として、カテゴリー分析を行った。その結果、「自然体験活動」「レクリエーション」「ものづくり」「科学」「保育技術」「食育」「学習」「イベント・行事」の8つのカテゴリーが抽出された (Table14)。

Table13 連携授業に対する希望内容の具体的記述の有無 (N=109)

具体的記述の有無	人数	%
具体的記述あり	69人	61.0%
具体的記述なし	40人	39.0%
計	105人	100%

Table14 連携授業に対する希望内容のカテゴリー分析 (N=69)

カテゴリー	記述内容の例
1.自然体験活動	遠足, 芋掘り, タケノコ掘り, 地域の散歩, 大学内の動植物に触れて生態を知る授業
2.レクリエーション	宝探し, 鬼ごっこ, だるまさんがころんだ, 椅子取りゲーム, ドッジボール
3.ものづくり	折り紙, 制作, 図工, 身近な物で遊べる物を作る
4.科学	理科の楽しい実験
5.保育技術	手遊び, 弾き歌い, パネルシアター
6.食育	食に関する授業, 料理
7.学習	小学生と勉強をする, 勉強を教える
8.イベント・行事	クリスマス会, 運動会, お祭り, ゴミ拾い, 大学行事に招待する

(無回答11名)

2.本校と対象校との意識の比較

「1) 地域への関心度」「3) 学生が地域と関わりを持つことの必要感」「4) 大学が小学校と連携することの必要感」「5) 幼稚園・保育所における地域連携の必要感」のそれぞれの項目得点について, 本校と対象校であるK短期大学との意識の差を検証するために, t検定を行った(Table15)。その結果, 「地域への関心度」($t = 2.05$, $p < .05$)と「大学が小学校と連携することの必要感」($t = 3.75$, $p < .001$)において大学間差が検出され, 本校の方が有意に高いことが示された。

Table15 t検定による項目得点の平均値 (SD) の比較

	埼玉純真短期大学	K 短期大学	t 値
1.地域への関心度	3.00 (0.72)	2.72 (0.66)	2.05 [*]
2.学生が地域と関わりを持つことの必要感	3.08 (0.51)	2.95 (0.40)	1.46 ^{ns}
3.大学が小学校と連携することの必要感	3.18 (0.47)	2.86 (0.40)	3.75 ^{***}
4.幼稚園・保育所における地域連携の必要感	3.36 (0.53)	3.39 (0.49)	0.33 ^{ns}

^{*} $p < .05$, ^{***} $p < .001$

IV. 今後の課題

本研究の目的は、本学の学生と他大学の保育科学生を対象に、学生の地域連携や連携授業に対する意識調査を行うことである。質問紙調査により得られたデータについて、統計分析および自由記述のカテゴリー分析を行った。

学生の「1) 地域への関心度」は、平均得点が2.86であり、多くの者が「3. 普通」と回答していることから、学生は居住地域や学校地域に対して、それほど高い関心を寄せているとは言えないことが分かった。その一方、「3) 学生が地域と関わりを持つことの必要感」「4) 大学が小学校と連携することの必要感」「5) 幼稚園・保育所における地域連携の必要感」の平均得点はそれぞれ、3.01, 3.01, 3.37であり、多くの者が「3. 必要だと思う」と回答していることから、学生は地域連携の必要性を感じていることが示された。また、これらの項目得点について、本校と対象校であるK短期大学との間に差があるか検証した。その結果、「1) 地域への関心度」と「4) 大学が小学校と連携することの必要感」の得点は、本校の方がK短期大学よりも高いことが示された (Table15)。この結果は、これまで本学が積極的に実施してきた連携授業の効果と考えられる。特に、小学校との連携の必要感の項目に差が見られたのは、羽生市「学びあい夢プロジェクト」の一環として、小学校との連携授業の機会を多く設けた本学独自の取り組みが一定の成果として表れたためであろう。ただし、調査対象者の学生は、調査時点において、小学校とは交流を行っていない。そのため、本研究結果は、小学校との連携授業の実施効果ではなく、筆者らが連携の準備や必要性を授業内で伝達したことによる間接的な効果と言えよう。今後は、平成29年度の全交流が終了した段階で再び調査を行う必要がある。また、本研究で得られた結果は、本学やK短期大学の地域性や調査対象者の属性による違いが関与している可能性があるため、結果の過度な一般化には慎重にならざるを得ない。今後は、サンプル数や対象者の属性を拡大することにより、本研究の追試を行っていきたい。

また、学生の自由記述についてカテゴリー分析を行った結果、学生が地域と関わりを持つ必要性の理由 (Table8)、大学が小学校と連携する必要性の理由 (Table10)、幼稚園・保育所が地域連携を行う必要性の理由 (Table12) のそれぞれについて、カテゴリーごとに分類された。今後は、これらのカテゴリーを参考に測定尺度を作成し、地域連携の効果を客観的に検証するための指標を開発することを課題とする。また、連携授業に対する希望内容 (Table14) は、交流内容や交流プログラムを検討する際の資料として活用する。これにより、教員主導ではなく、学生の主体性を重視した連携授業を展開していきたい。

謝辞

貴重なお時間を割いてアンケートの回答にご協力して頂きました多くの学生の方々に心より感謝の意を申し上げます。